

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年後期	1・2	2	選択
担当教員			
脇坂 圭一			
添付ファイル			
講義概要	・本講義では、複雑化、高度化、多様化する社会において、都市・建築が果たす役割、とりわけ都市・建築計画と都市・建築デザインを架橋する方法論について考究する。すなわち、本講義では、論理的思考としての都市・建築計画と感覚的思考としての都市・建築デザインをプログラムの観点から俯瞰する視点を養う。 ・トピックについてはあらかじめ提示する。従来のビルディングタイプにはあてはまらない社会制度や人間活動の基盤としての新たな「型」を見いだすことが本講義の目標である。 ・複雑化、高度化、多様化する社会に適合したプログラムの提示に向け、具体的な設計事例のリサーチ、社会制度や人間活動の分析から発表された研究論文のレビューを通して学修していく。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 トピックに関連した実践としての建築設計事例を対象としたリサーチ。 第3回 トピックに関連した用途や潮流に関する研究論文のレビュー。 第4回 トピックに関連した実践事例、既往研究を通じた分析としての発表、討議。 第5回 トピックに関連した実践としての建築設計事例を対象としたリサーチ。 外部専門家を招いたミニレクチャーの聴講にかえる場合がある。 第6回 トピックに関連した用途や潮流に関する研究論文のレビュー。 第7回 トピックに関連した実践事例、既往研究を通じた分析としての発表、討議。 第8回 トピックに関連した実践としての建築設計事例を対象としたリサーチ。 第9回 トピックに関連した用途や潮流に関する研究論文のレビュー。 第10回 トピックに関連した実践事例、既往研究を通じた分析としての発表、討議。 外部専門家を招いたミニレクチャーの聴講にかえる場合がある。 第11回 トピックに関連した実践としての建築設計事例を対象としたリサーチ。 第12回 トピックに関連した用途や潮流に関する研究論文のレビュー。 第13回 トピックに関連した実践事例、既往研究を通じた分析としての発表、討議。 第14回 トピックに関連した実践としての建築設計事例を対象としたリサーチ。 第15回 トピックに関連した用途や潮流に関する研究論文のレビュー。		
授業形態	・講義形式およびスタジオ形式 ・講義のうち1, 2回、外部専門家を招いて、ミニレクチャーを聴講することがある。		
達成目標	修士論文の執筆に向けて、具体的な設計事例を対象とした分析手法を習得するとともに、分析した結果をリサーチブックにまとめることを目指す。		
評価方法・フィードバック	課題レポート、発表、質疑応答を総合的に評価する。		
評価基準	課題レポート、発表、質疑応答の論理性を主として、理解力、判断力、関心、態度を評価する。		
教科書・参考書	教科書：脇坂圭一ほか「環境シミュレーションを活かした建築デザイン手法」（建築技術、2022.3刊行予定） 参考書：適宜、提示する。		
履修条件	・建築計画1、建築計画2、近代建築史を履修していること。 ・学部で取り組んだ卒業研究について、日本建築学会支部研究集会または日本建築学会大会に投稿・発表した学生の受講を推奨する。		
履修上の注意	・本講義はリサーチおよびレビュー、それらの発表、討議を通して行うため、事前の準備を必須とする。		
準備学習と課題の内容	・トピックに関連した実践としての建築設計事例を対象としたリサーチ、関連用途や潮流に関する研究論文のレビューについて、事前に発表資料を作成する。		

ディプロマポリシーとの関連割合 (必須)	知識・理解25%、思考・判断25%、関心・意欲15%、態度10%、技能・表現25%
-------------------------	---